

第4章 距離空間

§ 12 ユークリッド空間

例題 等式 $\mathbb{R}^n = M^i \amalg M^e \amalg M^f$ (p.52 l.4) を証明せよ*1.

証明 次の4点を示せばよい: (1) $\mathbb{R}^n = M^i \cup M^e \cup M^f$. (2) $M^i \cap M^e = \emptyset$. (3) $M^i \cap M^f = \emptyset$. (4) $M^e \cap M^f = \emptyset$.

(1) \supset は自明なので、逆の包含関係を示せばよい. $x \in \mathbb{R}^n$ について $x \in M^f$ または $x \notin M^f$ の一方のみが成立する. $x \in M^f$ ならば $x \in M^i \cup M^e \cup M^f$. 一方, $x \notin M^f$ だとすると、定義より「或る $\varepsilon > 0$ に対し $B(x; \varepsilon) \cap M = \emptyset$ 」または「或る $\varepsilon > 0$ に対し $B(x; \varepsilon) \cap M^c = \emptyset$ 」の少なくとも一方が成立する*2. 前者は「或る $\varepsilon > 0$ に対し $B(x; \varepsilon) \subset M^c$ 」、すなわち $x \in M^e$ である事と同値、後者は「或る $\varepsilon > 0$ に対し $B(x; \varepsilon) \subset M$ 」、すなわち $x \in M^i$ である事と同値だから、 x は M^f, M^e または M^i の何れかに属する.

(2) $x \in M^i \cap M^e$ だとすると $B(x; \varepsilon) \subset M, B(x; \eta) \subset M^c$ となる $\varepsilon, \eta > 0$ が存在. このとき $x \in B(x; \varepsilon) \cap B(x; \eta) \subset M \cap M^c$ となるが、これは $M \cap M^c = \emptyset$ に反する.

(3) $x \in M^i \cap M^f$ だとする. $x \in M^i$ より $B(x; \varepsilon) \subset M$, 即ち $B(x; \varepsilon) \cap M^c = \emptyset$ となる $\varepsilon > 0$ が存在. しかしこれは $x \in M^f$ である事に反する.

(4) $x \in M^e \cap M^f$ だとする. $x \in M^e$ より $B(x; \varepsilon) \subset M^c$, 即ち $B(x; \varepsilon) \cap M = \emptyset$ となる $\varepsilon > 0$ が存在. しかしこれは $x \in M^f$ である事に反する.

以上より等式 $\mathbb{R}^n = M^i \amalg M^e \amalg M^f$ の成立が示された. □

p. 54 問 12. 1 \mathbb{R}^n の部分集合 M について、 $(M^i)^i = M^i$ 及び $(M^a)^a = M^a$ が成り立つ事を示せ.

解答 $(M^i)^i \subset M^i$ は自明 (p. 51 参照). 一方, $x \in M^i$ だとすると $B(x; \varepsilon) \subset M$ となる $\varepsilon > 0$ が存在. 任意の $y \in B(x; \varepsilon)$ について $0 < \eta < \varepsilon - d(x, y)$ となる η をとるとき、任意の $z \in B(y; \eta)$ について

$$d(x, z) < d(x, y) + d(y, z) < d(x, y) + \eta < \varepsilon$$

となるから $B(y; \eta) \subset B(x; \varepsilon) \subset M$, よって $y \in M^i$ となる. これより $B(x; \varepsilon) \subset M^i$ だから $x \in (M^i)^i$, 従って $M^i \subset (M^i)^i$ が成立. 故に $(M^i)^i = M^i$ である.

$M^a \subset (M^a)^a$ は自明 (p. 53 参照). $x \in (M^a)^a$ とする. 任意の $\varepsilon > 0$ に対し $y \in B(x; \varepsilon/2) \cap M^a$ がとれる. また $y \in M^a$ より $z \in B(y; \varepsilon/2) \cap M$ がとれる. このとき

$$d(x, z) \leq d(x, y) + d(y, z) < \varepsilon/2 + \varepsilon/2 = \varepsilon$$

だから $z \in B(x; \varepsilon) \cap M$, 即ち $x \in M^a$ となり、故に $M^a = (M^a)^a$ である. □

*1 一般に X, Y の和集合を $X \cup Y$ によって表すが、特に $X \cap Y = \emptyset$ の場合、 $X \cup Y$ を改めて $X \amalg Y$ と記し、これを X と Y の直和 (direct sum) という. 直和を $X \sqcup Y, X + Y, X \dot{+} Y, X \oplus Y$ 等と記す事もある.

*2 命題 P, Q を

$$P: \text{任意の } \varepsilon > 0 \text{ に対し } B(x; \varepsilon) \cap M = \emptyset, \quad Q: \text{任意の } \varepsilon > 0 \text{ に対し } B(x; \varepsilon) \cap M^c = \emptyset$$

と置けば $x \in M^f$ であるとは x について $P \wedge Q$ ($= P$ かつ Q) が成り立つ事に他ならない. 従って $x \notin M^f$ とは x について $\neg(P \wedge Q) = (\neg P) \vee (\neg Q)$ が成立する事である.

p. 54 問 12. 2 a_i, b_i ($i = 1, 2, \dots, n$) を $a_i < b_i$ であるような実数とする. 集合

$$\{x \in \mathbb{R}^n : a_i < x_i < b_i \ (i = 1, 2, \dots, n)\} = (a_1, b_1) \times (a_2, b_2) \times \cdots \times (a_n, b_n)$$

は \mathbb{R}^n の開集合であり, 集合

$$\{x \in \mathbb{R}^n : a_i \leq x_i \leq b_i \ (i = 1, 2, \dots, n)\} = [a_1, b_1] \times [a_2, b_2] \times \cdots \times [a_n, b_n]$$

は \mathbb{R}^n の閉集合である事を示せ.

解答 $I = (a_1, b_1) \times \cdots \times (a_n, b_n)$ が開集合である事: $x = (x_1, \dots, x_n) \in I$ に対し $0 < \varepsilon < \min\{|a_i - x_i|, |b_i - x_i|\} \ (i = 1, \dots, n)$ となる ε をとる. 任意の $y = (y_1, \dots, y_n) \in B(x; \varepsilon)$ に対し

$$|y_i - x_i| \leq \sqrt{\sum_{i=1}^n (y_i - x_i)^2} = d(x, y) < \varepsilon \leq |a_i - x_i|, |b_i - x_i| \quad (i = 1, \dots, n)$$

だから $y \in I$, 従って $B(x; \varepsilon) \subset I$. 故に I の任意の点は内点となり, I は開集合である.

$J = [a_1, b_1] \times \cdots \times [a_n, b_n]$ が閉集合である事:

$$J = ([a_1, b_1] \times \mathbb{R}^{n-1}) \cap (\mathbb{R} \times [a_2, b_2] \times \mathbb{R}^{n-2}) \cap \cdots \cap (\mathbb{R}^{n-1} \times [a_n, b_n]) = \bigcap_{j=1}^n \mathbb{R}^{j-1} \times [a_j, b_j] \times \mathbb{R}^{n-j}$$

より J の補集合 J^c は

$$\begin{aligned} J^c &= \left(\bigcap_{j=1}^n \mathbb{R}^{j-1} \times [a_j, b_j] \times \mathbb{R}^{n-j} \right)^c = \bigcup_{j=1}^n (\mathbb{R}^{j-1} \times [a_j, b_j] \times \mathbb{R}^{n-j})^c \\ &= \bigcup_{j=1}^n (\mathbb{R}^{j-1} \times (-\infty, a_j) \times \mathbb{R}^{n-j} \cup \mathbb{R}^{j-1} \times (b_j, \infty) \times \mathbb{R}^{n-j}). \end{aligned}$$

前者より $\mathbb{R}^{j-1} \times (-\infty, a_j) \times \mathbb{R}^{n-j}$, $\mathbb{R}^{j-1} \times (b_j, \infty) \times \mathbb{R}^{n-j}$ は開集合だから, 定理 12.2 (3) より J^c は開集合. 従って定理 12.1 より J は閉集合である. \square

p. 56 問 12. 3 \mathbb{R}^n の閉集合全体の集合 (\mathbb{R}^n の閉集合系という) を \mathfrak{A} で表すとき, \mathfrak{A} は次の条件を満足する事を示せ.

- (1) $\mathbb{R}^n \in \mathfrak{A}$, $\emptyset \in \mathfrak{A}$.
- (2) $A_1, \dots, A_k \in \mathfrak{A}$ ならば $A_1 \cup \cdots \cup A_k \in \mathfrak{A}$.
- (3) $A_\lambda \in \mathfrak{A}$ ($\lambda \in \Lambda$) ならば $\bigcap_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda \in \mathfrak{A}$.

解答 (1) $\overline{\mathbb{R}^n} = \mathbb{R}^n$ は自明. $x \in \overline{\emptyset}$ だとすると $B(x; \varepsilon) \cap \emptyset \neq \emptyset$ ($\forall \varepsilon > 0$) という矛盾が導かれるから $\overline{\emptyset} = \emptyset$. $\therefore \mathbb{R}^n, \emptyset \in \mathfrak{A}$.

(2) $A_1, \dots, A_k \in \mathfrak{A}$ だとする. $x \in \overline{A_1 \cup \cdots \cup A_k}$ について $x \notin A_i = \overline{A_i}$ ($\forall i$) だとすると, $B(x; \varepsilon) \cap A_i = \emptyset$ となる $\varepsilon > 0$ が存在. $B(x; \varepsilon) \cap (A_1 \cup \cdots \cup A_k) = \emptyset$ となるが, これは x のとり方に反する. 従って $\overline{A_1 \cup \cdots \cup A_k} = A_1 \cup \cdots \cup A_k$, 即ち $A_1 \cup \cdots \cup A_k \in \mathfrak{A}$.

(3) $A_\lambda \in \mathfrak{A}$ ($\lambda \in \Lambda$) だとする. $x \in \overline{\bigcap_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda}$ だとすると任意に $\lambda \in \Lambda$ に対し

$$B(x; \varepsilon) \cap A_\lambda \supset B(x; \varepsilon) \cap \left(\bigcap_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda \right) \neq \emptyset \quad (\varepsilon > 0),$$

従って $x \in \overline{A_\lambda} = A_\lambda$ となり, $x \in \bigcap_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda$. よって $\overline{\bigcap_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda} = \bigcap_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda$, 即ち $\bigcap_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda \in \mathfrak{A}$ となる. \square

p. 56 問 12. 4 \mathbb{R}^n の部分集合 M について, 内部 M° は M に含まれる最大の開集合であり, 閉包 \overline{M} は M を含む最小の閉集合である事を示せ.

解答 内部の定義、及び問 12.1 より M^i は M に含まれる開集合である。次に O を M に含まれる開集合だとする。任意の $x \in O$ に対し $B(x; \varepsilon) \subset O$ となる $\varepsilon > 0$ が存在。 $O \subset M$ だから $B(x; \varepsilon) \subset M$ 、従って $x \in M^i$ 、即ち $O \subset M^i$ となる。

閉包の定義、及び問 12.1 より \overline{M} は M を含む閉集合である。次に F を M を含む閉集合だとする。 $x \in \overline{M}$ のとき、任意の $\varepsilon > 0$ に対し $B(x; \varepsilon) \cap F \supset B(x; \varepsilon) \cap M \neq \emptyset$ となるから、 $x \in \overline{F} = F$ 。従って $x \in F$ 、即ち $\overline{M} \subset F$ となる。 \square